

甲斐市立敷島小学校 自己評価書

平成 30 年 2 月 14 日（水）作成

校長 河西 慶仁

記述者 教頭 竹野貢造

学校教育目標

「知・徳・体の調和のとれた 人間性豊かな子どもの育成」

- ① 確かな学力を身につけた子ども
- ② 心の豊かな子ども
- ③ 明るくたくましい子ども

学校経営方針

- (1) 全職員は、児童・保護者・地域の実態を的確に把握して、学校教育目標の実現に向けて努力する。
- (2) 「生きる力」をはぐくむ適切な教育課程の編成と実施に努めるとともに、学習指導要領に則り、指導計画の改善と充実に努める。
- (3) 教育活動を推進するにあたり、常に P D C A に基づいた振り返りと改善を行い、その充実に努める。
- (4) 授業時数を十分に確保し、指導内容・指導法の工夫などにより学習の基礎・基本の定着を図る。
- (5) 言語活動の充実と活用型学習活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力の向上をめざす。
- (6) 体験学習を重視し、地域の人・文化・自然等の教育財産の活用を図り、自ら学ぶ意欲や共に学び合う態度の育成及び実践力の向上に努める。
- (7) より深い児童理解に努め、指導方針や内容の共通理解を図る中で適切な生徒指導にあたる。
- (8) 特別支援教育についての啓発を図り、個々のニーズに応じた適切な指導が行える校内体制の充実に努める。
- (9) 家庭や地域社会との積極的な交流体制の充実に努め、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりをめざす。
- (10) 学習環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと、健康・安全教育を推進する。
- (11) 教職員の資質の向上を図るとともに、職員の長所を生かし、協働して教育活動に専念できる職場づくりに努める。

1 全体評価

- ・ 学校長の掲げる学校経営方針が教職員によく理解され、一年間を通じて教育活動や分掌処理に努めていることで、教育活動（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）全般にわたって、教職員・児童・保護者から、ともに肯定的な結果を得られた。このことから、敷島小学校の学校評価に係る総合評価は概ね良好な水準にあると考えられる。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、楽しいところであるか」という設問に対して、児童・保護者ともに9割以上が肯定的な回答であった。 ・本校職員による自己評価からは、日常の教育活動が学校教育目標や重点目標を踏まえ、実態に即した教育実践になっていることがうかがえる。 ・P→D→C→Aサイクルによる教育活動の推進について、学校組織として取り組んでいるという意識は高い。それに比べると、教職員一人ひとりの取組については、さらに高みを目指すという意味で改善の余地があると思われる。 ・職場の福利厚生や健康管理についての評価は、肯定的なものが多いが、他の項目に比べると評定の平均値は低い。業務多忙化が、その一因になっていることが考えられる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は児童にとって安全で楽しいところであるべきではない。「学校は楽しいところであるか」の設問に対するアンケート結果は高評価であるが、「あまり楽しくない（27人）」「楽しくない（8名）」の回答もあり、決して見逃すことはできない。学年ごとの状況に応じて、その原因を確認し、丁寧な対応を組織的に行っていく。 ・学校生活で過ごす時間の大半は授業であるため、児童にとってよくわかる授業を行うことは極めて大切である。学ぶ楽しさやわかる喜びを実感し、基礎的・基本的な内容が着実に身に付き、発展的な内容にも取り組んでいけるような教育課程の編成に今後も取り組んでいく。 ・教職員の授業指導力や生徒指導力が高まれば、児童の行動は安定し、落ち着いた学校生活を送ることができる。力のつく校内研修を行い、学校経営方針にある教職員の資質向上を図っていく。 ・教育活動に対する学校評価を的確に行い、学校関係者評価で得られた結果について全職員できちんと受け止めて対策を考察し、P→D→C→Aサイクルを生かした学校改善を行っていく。 ・学校は様々な校務を分担して行っているが、それに対する自己目標を立て、計画立案・実践・評価・改善という組織マネジメントの手法を教職員一人ひとりが担当する校務分掌活動でも行っていく。 ・職場の福利厚生や健康管理の向上に資するために、現在、業務多忙化の改善に取り組んでいる。会議の効率化や事務処理の簡素化、タイムマネジメントの確立等をさらに推進し、教職員が児童と向き合う時間、自分自身と向き合う時間の確保に努めていきたい。
II 学校運営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内外の施設設備の定期点検や日常の点検結果に基づく修繕等については、校舎が老朽化傾向にあることもあり、職員の意識も高く、事故防止に積極的に取り組んでいる。しかし、危機管理、特に不審者侵入に関しては、学校施設の状況（門扉の施錠や防犯設備）に引き続き課題がある。 ・個人情報保護・情報セキュリティ・諸表簿や文書、記憶媒体の適切な管理・活用については、職員の意識の高さがうかがえる。 ・職員会議や校内での研修には、積極的・主体的に関わっている職員が多い。また、他の職員との相互理解や信頼関係を深めながら「報告・連絡・相談・確認」といった連携も適切にとれている状況にある。 ・平成29年度・30年度にかけて校舎の大規模改修工事を行っている。教育活動を展開する上で、不都合を生じている面もあるが、児童の安全を最優先している。
改善策	<p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での事故防止に向けては、細部にわたる安全点検と迅速な改善を今後とも継続的に行う。担当による定期的な点検に加えて管理職が校内巡視をする機会も増やしていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故防止や水難事故防止，熱中症対策，有害紫外線対策，感染症対策等に関わって，児童に対する安全教育の徹底を引き続き図っていく。特に，ここ数年実施している水泳シーズン当初での着衣泳指導は，来年度も継続して行うことで児童たちの水による事故防止の意識を高めていきたい。 ・危機管理については，マニュアルの見直し（東日本大震災を受けての変更点の確認）を行ってきているが，細部の確認を今後も実施していく必要がある。事前予告なしの避難訓練や様々な設定での避難訓練等をもとに児童の安全な行動の取り方や対処法，避難場所・避難経路の確認なども実践的に実施していく。さらに保護者や地域，関係機関と連携しての実効性の高い防災訓練と防災教育を積極的に実施する。 ・校務分掌の整備と各学年や分掌間の連絡調整と情報交換を緊密に行う。また，分掌分担は，個々の能力，実績，意欲を加味し適材適所に今後も配置する。 ・大規模改修工事に伴い，来年度も教室移動等を行うこととなるが，児童の教育活動の保障と安全に努めていきたい。 ・甲斐市から2年間の研究指定を受け，敷島中学校区4校による連携をテーマとした研究に取り組んだ。あいさつ運動や児童生徒及び職員の交流など，研究を通して得られた成果を積極的に今後も日常の教育活動に生かしていく。
--	---

Ⅲ 学習指導について

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの意欲を喚起する，基礎基本の定着を図る，個に配慮した授業の実施等」について，教職員の自己評価は高い。これは絶えず学習の目標を明確にし，個に応じた指導の工夫を心がけている表れであると考えられる。 ・児童の学習に対するアンケートでは，「学校の授業が楽しいか」という設問に対して約1割の児童が「楽しくない（あまり楽しくない）」といった回答をしている。 ・「学校は熱心に授業に取り組んでいるか（先生はよく勉強を教えてくれるか）」という設問には，保護者・児童ともに肯定的な回答が多かった。それに比べると「授業の内容（国語・算数）が分かるか（分かっているか）」という設問の回答は，やや評定の値が低い。 ・授業中の質問や発言についての設問では，教師と児童の回答に乖離が見られた。 （教師は，質問や発言が出る授業を行っているが，できていない児童が全体で3割いる） ・宿題や家庭での自主学習への取組状況は，児童・保護者の間で大きな差は見られない。宿題は忘れずに取り組めるが，自主学習の目標時間である「学年×10分+10分」となると目標に達していない児童が全体で2割弱いることが分かる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を定着させるために，基礎的・基本的な知識・技能の習得，思考力・判断力・表現力の育成，主体的な学習態度の一層の育成を図る。そのために，体験的な学習や問題解決的な学習，言語活動を教育活動へ適切に位置づけるようにする。 ・授業を一斉授業だけでなく，グループ学習，習熟度別学習等，一人ひとりの児童に目を向けた授業をさらに推進していく。 ・限られた予算を最大限に生かし，情報設備・視聴覚器具等設備の充実を心がける。 ・主体的な学習態度の育成については，自己評価や相互評価などの多様な評価から，自分自身の良さや成長の様子を積極的に評価することにより児童の学習意欲を引き出していく。 ・家庭学習については，発達段階に応じた内容と量を考える中，家庭と連携し習慣化し，学年が上がるに従って，質の高い自発学習へ取り組む姿勢を身につけさせていく。そのためにも引き続き「自学のすすめ」の取組を積極的に行い，主体的な学習習慣を一層身につけられるよう家庭にも協力を得ながら推進していく。

IV 生徒指導について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と児童との関係に関する設問で、教職員は「児童理解のためのコミュニケーションを図っている」に対して肯定的な評価をしているが、保護者・児童の「相談できる先生がいますか」の回答では、否定的なものがともに2割以上ある。児童や保護者目線で考えた場合、改善の余地があることがうかがえる。 ・児童に規範意識を育む設問では、教職員は肯定的な回答が多い。これは、児童の「きまりを守る、清掃活動や委員会活動にしっかり取り組む」といったアンケート結果と同じ傾向にある。教師の指導が良く反映されていることがわかる。 ・「将来の夢や希望を持っていますか」の設問に対し、多くの保護者・児童が肯定的な回答をしているが、1割程度否定的な回答になっている。 ・現状、不登校の児童は在籍していない。いじめに関しては、数件の事案を2学期までに確認している。多くは「冷やかし、からかい、悪口」といった態様であるが、そのすべてが、解消もしくは一定の改善が図られている状況にある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から学級経営の充実を図るとともに、児童理解については、カウンセリングマインド（受容、人格の尊重、共感的理解）の手法での対応で児童との信頼関係を深めていく。 ・規範意識や思いやりの心などの育成は、道徳の時間を要とし教育活動全体に位置づけて行う。特に集団宿泊体験、自然体験、奉仕体験など経験を通じた道徳的実践力を育成する。また、地域の人々や高齢者、障害者との交流を促進する。 ・小中連携の研究を生かし、敷島地区および本校児童に期待される道徳的実践力、不足していると思われる道徳内容について検討し、授業改善に努めていく。 ・家庭との情報交換や教育方針の共有を一層図るとともに、学習や生活上の個別相談、あるいは家庭訪問等により問題が生じた場合の早期対応、早期解決を図る。その際、必要に応じて、SC（スクールカウンセラー）SSW（スクールソーシャルワーカー）などの専門家や教育委員会といった関係機関との連携を今後も推進していく。 ・望ましい勤労観や職業観の育成や社会で自立して生きる力をはぐくむため、教育活動全体にキャリア教育（人間関係形成能力、情報活用能力、意志決定能力、将来設計能力等の育成）を適切に位置づけることはもちろん、ものづくりや生産活動といった体験活動を位置づける。また、家庭や地域と連携して、働くことの意義、家の手伝い、地域の奉仕活動等への参加促進を図る。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域との連携」についての設問では、教職員、児童、保護者ともに肯定的な回答が多い。教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、学習で多くの支援を得ている実態がある。 ・PTA活動への参加意識は、教職員も保護者も肯定的な回答の傾向にあるが、PTA役員以外の保護者においては、参加意識に若干のばらつきがみられるのではないかと推測される。 ・学校からのたよりやホームページを通じた広報活動は、適宜、適切に行われていることがうかがえる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に対して、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を担い、責任を持つためにもPTA活動については、保護者に主体的に関わってもらう必要がある。今年度も本会役員、専門部委員等を中心に協力をいただき学校行事や学年行事等予定通りに実施することができた。今後も組織体制で活動に取り組めるよう努めたい。 ・PTA活動については、これまでの成果を生かして、引き続き参加意識の啓発と機会の確保を図りたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援や学校環境保全，安全安心の確保など地域と一体となって教育活動を展開することにより，児童の学習意欲も喚起され，また，教師と児童のふれあう時間も増える。地域の教育資源の活用と整備とを推進していきたい。 ・地域とともにある学校づくりのため，教育活動や学校運営の状況について，積極的に情報を発信してきた。今後も学校への理解と支援を図っていくために，ホームページやおたよりを十分活用していきたい。
--	---

VI 学校の特色に関して

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶に関連して，教職員は「進んで挨拶するよう，指導に努めている」という意識が高い。児童たちも地域の方への挨拶について意識は高い。学校，家庭での指導と実践を引き続き行っていきたい。 ・保護者アンケート「学校は音楽活動に力を入れて取り組んでいると思う」に対し，肯定的な回答が多く見られた。全校合唱，音楽集会，合唱部の活動等，本校の音楽活動が，地域や保護者によく理解されていることがうかがえる。
-------------	--

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議やすこやか委員会（児童たちへの支援や指導の在り方を検討する会）で，校内の挨拶への取組について共通理解を図り，その指導（朝や帰りの挨拶，職員の立哨指導，児童会の取組等）に努めてきた。このような取組を今後も継続し，あいさつが更にしっかりできる児童の育成を目指す。 ・小中連携に関する取組で，あいさつ運動を行った。甲斐市教育委員会指定事業としての取組は今年度までであるが，来年度に向けての方向性も確認することができた。学校独自の取組に加えて，地域での取組も今後推し進めていきたい。 ・本校の特色でもある異年齢グループのファミリーグループ活動は，放課後や週末における地域での異年齢集団の活動の減少を考えると，学校の教育活動として，欠かすことのできない活動であると捉えている。活動形態や内容の工夫を児童と考え，仲間づくりや思いやりの心をはぐくむことや運動の日常化を図る上で強化していきたい。 ・音楽集会や合唱部の活動は集団への所属感と学校への誇りと愛着をはぐくむ活動として，本校の大きな特色ある活動である。今後も積極的に推進していく。 ・日々の清掃活動の他，児童会活動としても「無言清掃」「掃除の実」と銘打って清掃活動に取り組んできた。勤労意欲を維持し，集団の一員としてよりよい生活や人間関係を育成する上でも，師弟同行を活動の中核に今後も取り組んでいく。
------------	---

3 まとめ

<p><今後一層充実させていきたい事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価や児童の実態，地域の実態に基づき具体的でわかりやすい目標を児童・保護者と共有していく。 ・授業のねらいの明確化，教材や教具を工夫した指導法，指導と評価の一体化を推進していく。 ・保護者の声を学校運営に生かして，学校の課題解決に取り組んでいく。 ・小中連携事業で培った財産を継続していくことで，児童・生徒の心の育成に努める。
--